

令和4年5月13日 議会改革特別委員会 議事録
10時00分 開会

○出席委員 (9人)

委員長 網谷 芳孝

副委員長 西村 一啓

委員 藤川 和弘、原田 孝徳、小中真樹雄、小田上尚典、北地 範久、
日域 究

議長 賀屋 幸治

○欠席委員 なし

○網谷委員長 皆さん、おはようございます。

それでは定足数に達しておりますので、これより議会改革特別委員会を開会いたします。
それから今日、中国新聞の記者さんが撮影をお願いしたいということなので許可したんですけど、よろしいですかね。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○網谷委員長 よろしくお願ひします。

それでは議事日程第1、議員定数問題に関する全議員16名アンケート結果に対する検証及び深掘りによる意見交換をさせていただきます。

最初に、議員定数問題と前回の市議会議員選挙による無投票との因果関係はという項目に関する、全議員16名のアンケートの中の疑問点、また検証及び深掘りにつきまして行いたいと思います。

それでは深掘り検証ということで意見をいただきたいのですが、発言のほうよろしくお願ひいたします。

小田上委員。

○小田上委員 おはようございます。

まずアンケートの中から、定数と無投票の因果関係というところからでよろしいですかね。であれば、個人的な意見を含むんですけども、このアンケートを見ていくと、同じような文言で、例えば定数と立候補者数が一緒だったから関係がある、定数が一緒だったから関係ないっていうような、前段は一緒なのに結果がちょっと違って見えるようなところがあるので、どういう意図で関係があるのか、関係がないのかなっていうところは、皆さんの意見も聞いてみたいんですけど、基本的に僕個人としては関係がないのかなという、因果関係ですね。その中で、辞められた方と出られる方っていう確実な数字っていうのはなかなか分からない、分かりにくいところもあります。

その情報っていうのが、立候補を決意されている方、引退の決意をされている方の表明のタイミングによっても、出ようかな、どうしようかなっていうところには関係するのかなとは思ってきます。ただ、それは進退とかっていう話を含むと思うので、じゃあこれが今16ですけど、13だったとか20だったとかっていうのも、変わらないんじゃないかなと思

います。なので、個人的には定数と無投票の因果関係みたいなのところはないのかなと思っています。

ただ、新人が出てて、人口に対して定数が多過ぎるっていうところの意見もあったりするので、じゃあ何を基準にして定数を考えていけばいいのかなっていうのは、正直、この中で出てくればいいなと思っています。

ひとまずは以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

立候補者が定数の数と同じということと、辞める方と出られる方の情報がちょっと少ないのではないかということによろしいですかね。

それで、定数との因果関係ということになるかと思いますが、この辺のところでは皆さんお気づきの点がございましたら。

小中委員。

○小中委員 先日も申しましたように、これ釜石市議選のときの出来事なんですけど、前回選挙はあって、結構大量に引退が出るということで、無投票になったらあかと事前に定数削減したわけです。定数削減したんだけど、その想定以上に引退者が出て、結局無投票になってしまっていたということを前回言いましたけど、結果に対する関係ということであれば、結果的には因果関係はあるということですよ。大体引退するとか、ある程度は分かると思うんですよ。

だから、その引退する人数よりも立候補者のほうが少なかったら、これはもう選挙にはならない、定数に達しないわけだし、選挙になって定数どおりになっても、一番最後の当選者が有効得票数を定数で割って、その4分の1の得票数がなかったら、それは当選にならないんで、そこでもまた欠員というのが生じるという。

あくまでも選挙が有効に行われるためには、少なくとも2人から3人ぐらい、定数よりも多い立候補者が、私は必要と考えております。そういう点からも、定数削減をするべきだという私の考えは変わりません。

○網谷委員長 ありがとうございます。

これ、誰かの意見に対してどう答えるかというような感じなので、皆さんそれぞれ自分の意見を言われている、それもよしかと思いますので、その辺のところは範囲を広げて発言していただけたらと思います。

ほかにございますか。

日域委員。

○日域委員 何を言ったらいいかわからないんですが、私の思いを言っておきます。思いというか分析ですけどね。

大竹市の議員定数と人口を比べたら、3万何千人いたときと今を比べて人口が半分になっているわけじゃありません。でも議員定数は半分近くになっていますよね。だからそう考えたら、人口比から見たら現状は正しいというか、大きな問題はないんだろーと思います。ポイントはやっぱり高齢化ですよ。私が議員になった頃は、60歳以上の議員に対してリタイアした人間が出てくるなみたいな、そういう風当たりというか、ありましたけど、

今は出る人がいないという感じじゃないですか。

例えばいわゆる現役世代といいますか、生産年齢の辺りを見たときに、大竹市の場合は相当人口減ってますよね。そういうこととか、ちゃんとしたサラリーマンの方ですよ、給与所得を受けている方って職場が普通認めませんから、選挙出られませんよね。それで昔の議員さんを見ると、大体自営業の方ですよ。そういうタイプの人が最近、ある意味減っているのかなという気がしますよね。

分析はそういうことですけれども、ただ選挙にならんかったら素朴に面白くないというか、面白くないということは、要するに市民から、議会に対する関心が薄れていくと、いつの間にか選挙があったけど、何か投票もないままやりよると、市民と議会の距離感が広がっていくという気がします。だから小中さんがおっしゃるのは、選挙があることは大事だということで、私もそれは思います。

じゃあどうするかっていうことですけれども、昨日補欠選挙の説明会があって、今日記事になってましたよね。うちの会派の議員が、大竹市、過去を見て必ず新人が何名か出てきてるから、たまたま前回は無投票やったけど、根本的に体質が変わってるわけじゃないんじゃないかっていう理屈を言った人がいますけど、ある意味ではそうなのかなという気も半分してるんです。

だから今後はそれなりに定数を超える立候補者が、また安定的に出てくれるのかなとも思いますけれども、一方では小中さんおっしゃるみたいに、また無投票だったら2回連チャンですからね。それはまずいなという気がしますし、正直私の気持ちはその辺りで中途半端な状態にありますけれども、どっちでなけりゃいけないという自信はないんですけれどもね。でも岩国も減らすっていうし、やっぱり徐々に減らしていくっていうのは流れかなという気はしています。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

ちょっと今日のテーマでございますよね。16名のアンケートの中の疑問点、深掘りということですので、アンケートの結果を持っとると思うんですが、この中の意見に対しての皆さんの考え方をぬくめていただきたいんですが。

できれば何番の方がこういうふうに言っているがどうじゃろうかというふうな、そのような進行の仕方が今日のテーマでございますので、できれば具体的に、自分の意見も確かに大切ではございますが、それを踏まえてこの16名の意見も一緒に取り入れていただいたら、会議の進行が的確になるんじゃないかというふうに解釈しておりますが。

小田上委員。

○小田上委員 では具体的にちょっと番号を言いながら。

以前まとめていただいたもの、令和3年度の040112っていうフォルダに入ってます、意見まとめの中にある番号でちょっと紹介させてもらえたらと思うんですけど。先ほど少し触れさせてもらった部分、情報提供がされてないっていう部分では、4番なのかなというふうに思います。

その情報提供がされてないっていう一面が、やっぱりどなたが引退されるのか、そもそ

も定数が何人なのかっていうところも含めて、基本的なところを含めて議会の活動だったり動きっていうものが見えないっていう一面もあるかと思います。それに加えて8番、議員の担い手不足っていう、この魅力を感じないんじゃないかというところ。あとはもう一個ありましたよね、担い手不足っていう言葉があります。11番か。

なので、11番に関しては投票率の減少というところがあるかと思いますが、ここに書いてますが、この3点に言えるのって議会の情報提供、どういう活動をしていますよ、仕事内容、じゃあその仕事内容をしっかり伝えることができれば、議員ってこういう仕事してるんだと、やってみたいなというところになって、魅力になるんじゃないかなと、伝わるんじゃないかなと思います。

今ここにおられる方を含めて16人の議員は、議員ってこういう仕事ができるんだっていう、ある一種の魅力を感じてなられていると思います。先ほど日域委員が触れられたところで、立候補する層っていうものがあるんじゃないかと。確かに会社員で生産年齢人口に入る人と難しいんじゃないかというような、それを超えられるほどの魅力をつくってあげるのいいんじゃないかなというふうなところではずっと思っていますので、じゃあそれと定数、無投票って考えると、むしろ定数がこれだから無投票になったということじゃなくて、魅力が伝わってない、魅力を感じないから無投票っていうような、こういう立候補者数の形になったんじゃないかなと考えています。ほかの方の意見も聞ければうれしいです。

○網谷委員長 今の小田上委員の質問というんですか、発言に対して何か今、番号で発言されましたが、4番の方の情報提供がされていないという、それが少ないということ、それは市民に対してですね。

それから8番の、議員に対しての魅力がないという。魅力がないということは投票率の減少にももちろん含まれますし、先ほど立候補の層が、現役世代ですね、その方たちが難しいということに対して皆さんの意見があれば、発言していただければと思うんですが。

そのほかにも、私はこの何番と何番はどうも意味が分からないとか、疑問を持つとかいう質問の仕方でもいいんじゃないかと思いますが。

藤川委員。

○藤川委員 今、小田上委員のおっしゃるとおりだと思っています。一部の議員は何をしているのか伝わっていない、発信できていない、これはもう僕にも原因はあると思います。私、身近な方にいろいろ議会のことを聞かれるのかなと思って、日々過ごしているんですけど、身近な方ほど誰も聞いてきません。私が説明をしようとしても、興味をまず持っていないんですね。

だから僕が今努力しているところは、できる限り興味を持ってもらう、今大竹市議会が何をしているか、大竹市が何をしているか、できる限りで近くの方にも発信しようとしているんですけど、そこまでも行かないんですね。発信しようとしたら、どうせわしらには関係ないと。だからそれをまず変える必要があるのかなと。興味を持ってもらうようにするのが一番大切だと思っています。

議員定数、私は実際この無投票の因果関係、私はないと思っています。本当にタイミ

ングだと。先ほど日域委員もおっしゃったとおり、新人さん議員3名から4名出ております。だから本当にタイミングだと思っております。

ですが、この16番の意見、ちょっと私、気になったので。因果関係は大いにある、定数が少ないほど無投票の確率が増える、大竹市の議会においてもその傾向があると。これ、私が思うのと違う方向から見ると御意見だったので、その方の意見調べたら、表を出してくれているんですね。この表を見ると、やっぱり議員定数を減らしているところは、無投票の割合が増えてるんですね。だからこういうところにもちょっと注目したらいいんじゃないかなと思っております。これはやっぱり数字に出ているので、こういうのも大切な参考資料として。

○網谷委員長 削減をしたら、無投票の確率が高くなるとということ。

○藤川委員 はい、無投票の確率が高くなっていると、これは総務省の発表で出ているようです。これは私が思っているのとちょっと違う方向からの角度だったので、この16番、ちょっと注目させていただきました。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

日域委員。

○日域委員 今藤川委員のおっしゃった、というか、これ出てますね、16番にね。定数が少ないほど無投票の確率が増えるって。総務省の文書かどこにあるっていう話が今ちらっと聞こえてきたので、ここは誤解がないようにちゃんと、どこにどのように書いてあるのか。

例えば大きな町の、広島市みたいに、選挙区がありますけれども、大きな町の定数の多い選挙において無投票というのは少なく、町村議会みたいに定数10人で、大川でしたか、高知県の北部の小さな町ですけれども、公務員が多くて、農業やっている人は農繁期に仕事休んで議会に来いって言われても、行けないわけですよね。それで議会をなくすとかいってニュースになりました。結局議会をなくしはしなかったですけども。

ちっちゃいところのほうが、無投票の可能性は高いですね。でもこれは定数を減らしたら、余計無投票になるという意味ではないと。定数を削減したらゴールがちっちゃくなるわけです。当然競争率は上がりますよね。だからこの文書をちょっとそういうふうに捉えたら、違うんじゃないかなと思います。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございました。

これはどこの提供の資料なんですか。総務省ということで。

どうぞ。北地委員。

○北地委員 今の問題から解決しますと、その中の資料としてアップされておりますので、その辺をよく見ていただければと思います。今藤川委員が言われていましたように、削減したから無投票だという意味じゃなしに、規模において議員定数が少ないところほど無投票が多いと。それは併せて人口も少なくなっているんですけども、そういう問題であって、ちょっと表現が違うんじゃないかなと思います。だから定数が少ないところほど無投

票になる率が高いというような表現、アップされておりますので、意見の後に、見ていただいたらと思います。

それと併せて、一番、今の問題というのが定数と無投票の因果関係という話でございますけれども、私思うのは、先ほど小田上委員に言われたように、4番とかそういった問題については、定数と無投票の因果関係というよりは、打開策のほうの関係だろうと思うんですよ。私、個人的に思うのは、定数と無投票の因果関係について、今16ですよ。これを1減らした、2減らした、1増やした、2増やしたということによって無投票になるかならないかという関係性は、どうも導き出されないと。その辺りはですね。

そのときのタイミングといいますか、引退者が多いとき、それと併せて新人が少ないとき、そういったときに無投票になる確率は出てくるとは思いますが、そこにおける因果関係というのは、ちょっと私個人としては見出されない。ただし16番に書いてありますように、意見として出ておりますけれども、定数が少ないところほど無投票の確率は高くなっているというところを見れば、因果関係がないとも言えない。因果関係というよりは、統計的にはそういう状況になっているというところが見出されるのかなというところはあるとは思いますが。

そういうことの中で、やはり今の現状の中で、定数と無投票の因果関係というのはちょっと見出せない。ただし全体的に見たときに、統計的には定数が少ないほど無投票が多いと、そういうところが言えるんじゃないかなというのが、私の意見です。今のところ、どっちにしろ、増やせ、減らせ、現状維持というのはちょっと見出せないところではありますけれども、因果関係というのはそんなには思っております。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

小田上委員の意見に対しての、お答えと思うんですが、4つぐらい小田上委員が提案されて、これはある程度いろんな項目にも関係することもあるかと思いますので。

日域委員。

○日域委員 今北地委員は、この16番のことを認めるような説明だったかと思うんですが、厳密な言い方すると、因果関係は大いにある、定数が少ないほど無投票の確率が増える。

これは間違いです。因果関係じゃなくて、相関関係ならあります。因果関係はありません。

(発言する者あり)

○日域委員 ならいいです。結局私が言ったことと同じでしょう。ちっちゃい町のほうが可能性が高くて、大きい町で、無投票だったりしないっていうか、やっぱりそうなったら何らかの力が働いて、おまえでええやって、誰か出そうって絶対なるわけですよ。小さいところのほうが一変にコンパクトにまとまってしまうところがあって、そういうことを書いてるんだろうなと思います。

○網谷委員長 ありがとうございます。

北地委員。

○北地委員 日域委員おっしゃるとおりで、統計的に見ればそういう状況になっているというのは認めざるを得ないところかなというところがございます。だから因果関係云々とい

うよりは、そういう統計的な状況というのは認めざるを得ないのかなというところを、意見で述べたところでございます。

○網谷委員長 あまり理由づけといいますか、計算じみた問題よりは、その方向性とかいうのを議論していただけたらと思います。ざっくりとも行きませんよね、それはそれで。そういうことで、皆さん意見をお願いします。

小田上委員。

○小田上委員 因果関係はないと思ってますというところではあるんですが、先ほど藤川委員が紹介いただいて、その流れからありました、定数が少ないほうが無投票の割合が多いという結果もあるというところでちょっと考えてみると、心情的にはすごく分かるんですね。倍率が高いところよりも倍率が低いほうが、立候補する心情としてはしやすいんじゃないかなと。それはもちろん落選したくて出る人っていうのはいないと思います。当選して仕事をしたいと思っている中で、明らかに10人しか枠がないところと30人枠があるところだったら、30人の枠のほうが、同じ人口規模で考えたときに可能性は大いに感じるというところでは、立候補しやすいなと、自分でもなれるんじゃないかなという心情になりやすいなと思いました。

ただ、じゃあやみくもに増やせばいいのかっていうのももちろんそうでもないし、なのでこの、今回無投票だったことと定数っていうところの関係はないと思うんですが、やっぱり必要なのは、じゃあ何人いれば適切なのか、その適切っていうのはどういうところを基準にするのがいいのか。

なので、この委員会の後半の議論は、無投票を受けての定数を考えるときに、無投票を回避するためだけの定数の考え方でいいのか。仕事として執行部が上げてくる議案を審査していく過程で必要な人数って何なのかっていうのを考えるほうがいいんじゃないのかなと、この話を伺ってて、まだ少し意見が出ただけですけど、もうすごく感じました。

なので、増えれば出やすくなるなっていう心情はありますけど、やみくもに増やせばいいわけじゃない。じゃあどうやって人数決めたらいいんだろうかっていうと、ちょっとその芯となる部分を見つけていきたいなというところです。

○網谷委員長 ありがとうございます。

今の意見といいますか、ちょっと難しい問題ではございますかね。無投票だけのためののか、これが定数にも関係してくるんですがね、それから人数の決め方ですね。これもなかなか難しい問題でもございますが、何か皆さん、意見があれば。

小中委員。

○小中委員 私は、現状維持で別に次、無投票でも構わないという意見の人がいたんですけど、どのようにして選挙権というのが得られてきたかちゅう歴史を考えて、選挙することがどれだけ大事かちゅうことをちゃんと考えたら、それは個人の自由なんだけれども、それはちゃうんやないかなと思いますよね。

前回について因果関係が云々って、前は引退者と、新たに立候補する人数とのミスマッチというか、それで無投票になったとしても、次、このままだと選挙が行われなくてもいいんじゃないということを前にして何もしないっていうのは、私は怠慢だと思うし、何人いた

ら十分かって、例えば16が14になったとしましょう。なったとしたところで、それで仕事ができないとかちゅうような議論には、私はならないんじゃないかと。12とか、もうそこまで行ったらできないちゅうのはあるかもしれないけれども、無投票だからというか、多くの自治体ではやっぱり選挙をすることが一番大事だから、無投票になったら困るから定数を減らしているんですよ。それをちゃんと見ていただかないと、と私は思います。

○網谷委員長 ありがとうございます。小中委員の前からの持論でございます。

小中委員の考え方では、皆さん無投票になった責任を感じないかという意味合いですかね、小中委員。

○小中委員 その選挙っていうのは、無投票であろうが何だろうが、その議員が何をやって何をやらなかったかという評価になるわけですよ。だから、最高裁判所裁判官の国民審査は4年に1回必ずあるわけですよ。どんだけ関心があるうがなかろうが、選挙っていうのは自分の支持する議員を当選させるという効果と、もう一つ、何もせんやつは落とさなあかんという効果もあるわけですよ。それを考えると、選挙は、無投票というのはまずいというのが私の意見です。

○網谷委員長 同じような意味合いだと思います。

日域委員、どうぞ。

○日域委員 今の話とは違うんですけど、さっきの、私はこの16番にこだわってるんですけども、例えば広島県議会がありますよね。あれが全県一区だったら無投票はないです。でも選挙区にするために定数が減るじゃないですか。一個一個、当然選挙区、4人とか3人ですよね。大竹なんか1人じゃないですか。そうすると無投票になりがちって、そういう意味ですよ。その例が一番説得力があるなど。

だから定数を減らすとか増やすとかそういう意味じゃなくて、要するに定数が少ない選挙区のほうが無投票の可能性が高いという統計データです。それを説明するには県議会が一番いいわけです。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

北地委員。

○北地委員 先ほどの小田上委員の御意見でございますけれども、そういったところ、定数の在り方については、この3項目めに定数の在り方というのがあるので、そちらのほうに展開していくのかなと、今後。今の段階ではなしに、そういった定数のありようというのは、そっちのほうでまた議論が深まっていくのかなとは思いますが、現状ではどうなのかなっていうのは、頭の隅には置いとかにやいけんと思います。

それで先ほど小中委員が言われましたように、少なくしようと、定数を少なくした。じゃあ必ず無投票にならないのかということ、それは絶対でないわけで、次回、今度は新人がぶわっと出たということになれば、そういったときには定数は減らしとるわ、新人はたくさん出た、そんなときにはどうなるのか。その辺の議論も要るのかなというふうには感じますけれども。

○網谷委員長 小中委員。

○小中委員 いや、私はそれは全く構わないと思います。例えばその江田島市議会選で、前回、定数が2減、それで3人落選したと、そのうち現職が2人落ちたと。それは、評価の機会を与えられたということで、新人がたくさん立候補するとかしないとかいうことではなくて、例えば2減らして1にしたからといって、確実に選挙があるかどうか分かりません。ただし、少なくとも最低限そういう努力をしたということは認められると思います。

それは14に減らして、14で無投票になったら、これはもうどうしようもない、市全体の責任っていうか、立候補する人材がいないのか、もうやる気がないのか、関心がないのか、どうでもいいと思っとるのかちゅうことになってくるんで、少なくとも前回無投票であるんだから、そういうことをちゃんと示す責任が議会にはあると思います。

○網谷委員長 努力をしたという行動ですね。

原田委員。

○原田委員 皆さんの御意見を聞いてまして、因果関係ですか、そういうものはおおむねないというか、結果としてそうなったというか、小中委員の言われたように不可抗力というか、そういうものでなったのかなというような気がします。

今の小中委員の件ですけれども、私も同感でして、ちょっと表現は違うかも知れませんが、例えば1減らして15にしましたと。無投票になるかも知れませんが、でも、30人出ても40人出ても、それは別に構わないと。競争があつていいと思いますし、別段それは特に問題はないというふうに思いますので、今、そのところはちょっと今そういうやり取りがあつたのでお話ししたんですけど、要は因果関係どうのこうのっていうことの議論よりは、たしか北地委員が言われたように、もう打開策とか定数の問題とかのほうに入ってもいいのかなと、私は思っております。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

一応順番にということなんで、今日は因果関係ということに絞っていきたいと思います。
北地委員。

○北地委員 先ほどの小中委員と、原田委員の御意見でございますけれども、減らしました、新人、次の選挙にいっぱい出ました。結局は、窓口を議会のほうで狭めてしまったと。たくさん出られるのに少なくしたという、そういう状況になるわけですね。それはどうなるか分かりませんよ。無投票になるのか、次の選挙がどうなるか分かりませんが、対応策として無投票を避けるために定数を削減したんだという理由づけであれば、次の選挙でたくさん出たときにはそれが言えるのかどうか、その辺をちょっと議論していただきたいと思います。

○網谷委員長 言えるのかと言われるということは。

○北地委員 たくさん出ましたよと、門戸を狭めたわけですね、立候補者の数を、これだけたくさん出られたはずなのに、もう狭めてしまったといったときにどうするのかと。どう責任を取るのかという言い方になるのかどうか、そこまで言えるのかどうか分かりませんが、その状況によって減らしたのか分かりませんが、その辺を議論して、やっぱり定数を今定めていかにやいけんのかなというふうには思いますけどね。

○網谷委員長 そういう議論になりますと、小中委員の意見がよろしいんじゃないですかね。

○小中委員 私は、競争率が上がることは大歓迎というか、人数がどうこうじゃなくて、議員一人一人の資質っちゅうのは競争率が高いからといって資質が担保されるわけではないけれども、競争率が高いということは、これはどこの世界でも必要なことだと思いますよ。

必ずしも任に当たるような人が全部当選しとるかどうかな、それは分かりませんが、その門戸を狭めるとか、そういうようなことでは私はないと思いますよね、個人的にはね。

例えば5とか6減らすとか、そういうんやったら話が全然違うんやけど、減らすにしても、もうこれ以上は減らせんっていうその臨界というか、何かその限界みたいなものがあると思いますから、でも現時点でそれに達しているとは私は個人的に思いませんので、例えば2減らしたところで14になって、別に常任委員会が7・7であろうが、それでできないとかっていう証明をどなたかがされれば、説得力のある説明をされれば、ああそうですかというふうになるけれども、そういう説明がない以上は、それは単なる自分らが当選したいがために定数を減らさんのやないかって、一部というか市民に思われても、それはそれでしゃあないと思いますよね。

その一方では、選挙なんか別にやらんでもええっちゅう人もおるわけだから、現状のままでええって。若い人間がもうちょっと、立候補する・しないじゃなくて、選挙ができるっていうことはどういうことかと。それで今まで選挙権を得るためにいかに多くの人が努力してきたかという歴史っていうのを考えたことがあるんかと、私は言いたいと思います。

○網谷委員長 ありがとうございます。

小田上委員。

○小田上委員 そうですね、この因果関係っていうところと少しずれてくるかなとは思いますが、やっぱり小中委員が言われていることってすごく大切なことがいっぱいあると思うんですね。ただ感覚の面っていうのがすごくあると思うんですね。もちろん僕自身にも、これぐらいだったらいいよねっていうような感覚っていうのは何事に対してもあると。例えばたばこ吸いますけど、1日1箱ぐらいだったらいいよねと思っている人もいます。ただ、いやいや半分ぐらいじゃないかって思っている人もいます。

じゃあ議員定数についてどうなのって言ったときに、先ほど臨界点という言葉を出されましたけど、1、2程度だったらいいけど、5、6はちょっとっていう、その感覚の根拠っていうものの議論がこの場でできればいいかなと。

あと、そういう発言があったので、やっぱり認識というか感覚的なものを一つずつ理由づけしていった落とし込んでいく作業ができるのがこの場だと思うので、先ほど小中委員がおっしゃった中の根拠を、委員会やるんだったら何人要るとかっていう根拠を示されていないのに、そんなものがないのにどうこう言えないというところで終わってしまうともったいないと思うので、じゃあそこをどういうところで考えたらええんやというふうに言ってもらったら、じゃあ皆さんで考えましょうやというところが後々の定数の在り方につながるのかなと、いいヒントだなと思いついて聞きました。

あと、若い人がどうこうっていう話もありましたけど、それはちょっと定数どうこうっていうところと無投票の因果関係と外れるかなと思うので、疑問に思ったことを1個ずつ

話をして、ここの場で消化していければ、今確実に小中委員と僕の中で、この程度でいいやっというところ、この程度はちょっとつというところが違うのが分かったので、僕は1、2、増やす、減らす、変えるときはこういう理由です、これだからです、根拠はこうだからです、があったほうがいいじゃない、なければならない。じゃないと市民の方に説明できないし、今回初めて無投票っていう形を受けた定数の話をしている。今までは財政的な問題が基本となって定数の話をしてきたというところで、以前からずっと言ってますけど、ある意味の判例、事例っていうのがここでできるので、じゃあ定数の考え方の根拠っていうのを見つけられたらいいなと思いましたんで、何かどんどん今話してて、これを深めていったらいいんじゃないかなと思う点は出てきてるので、うれしいです。

以上です。

○網谷委員長 今小田上委員の言われた、一つずつ片づければええんで、片づかんかも分かりませんが、それに対して一つ一つ、五、六人なら駄目じゃが1人、2人ならいいんじゃないのという、その感覚の問題ですか。それは確かに分かるんですが、悪い言葉で言うと、感覚で物を言うな、一つ一つ証明をしろと、極端に言えばそういう感じになるんじゃないかというふうに僕は捉えるんですが、なかなか難しいなと思うんですが。

〔「委員長」と呼ぶ者あり〕

○網谷委員長 北地委員、どうぞ。

○北地委員 参考までに言うんですけども、先ほどの議員定数が少ないほど無投票の数が高いという資料の中に、1枚目のほうの、平成27年と平成30年にも定数の議論はされとるんですよ。そこでは、もうこれ以上は減らしてはいけないというような意見の下に、この2回においては現状維持というような結論が出ているということを、ちょっと参考に申し添えておきます。

○網谷委員長 ありがとうございます。

原田委員。

○原田委員 先ほどの根拠については私もずっと、減らすにしても現状維持にするにしても、根拠は示さないといけないというふうに思います。それで小田上委員の言われたように、何人が適正なのか、感覚的なものではなくて、そこはしっかり議論していく必要はあるかなとは思ってます。人口も減っていく中で、例えば2万だったらどうかとか、1万5,000だったらどうか、そこまで考えなければならないことなのか、もう少し短いスパンで考えるべきなのかとかいうところも併せて考えるべきではないのかなと思います。

先ほどの15というのが、門戸を狭めるというふうな捉え方もできるかも分かりませんが、やはり議員の質がどうなのか、どういう活動をしているのかよく分からないというような意見があったりしますんで、門戸を狭めるというような解釈もできるかも分かりませんし、質を上げるというために減らすんだという理由づけも十分できるかなと、私は思っております。

以上です。

○網谷委員長 人口減少とか、いろいろな問題もある中での、一応原田委員は、今2名という数字を出されたんですかね。

原田委員。

○**原田委員** 私は、いきなり2名というのは、先ほどの根拠というか、そういうものを考える上において、非常にまた大変な作業になってくると思いますし、今後減らしていくことは必要だとは思いますが、やはり差し向きは1名は減らす、因果関係と関係ないので、この程度にとどめておきます。私は1です。

○**網谷委員長** 差し向きは1名ということは、一応感覚の問題ですよ、これ。なぜ1名かというところまで行ってないですよ。行ってますか。

原田委員。

○**原田委員** 単に私は人口の問題が大きいのかなと思ってますので、2040年、1万8,000人ぐらいの人口だったと思うんですが、予測がですね。その辺りで13名ぐらいかなというふうに思ってます、4,000人ぐらい減ってくると1人ぐらいは減らす。これも感覚と言われればそれはそうなのかも分かりませんが、人口に比例して減らして行って、最終的に2040年がたしか1万8,000人だったと思うので、その時点で13と。そこから逆算して2万2,000で14ですから、今が15というような感じで、4,000人ぐらい減っていく中で1人減らすのがいいんじゃないかなという計算の下に、今回1と。

もう一つ大きな理由が、人口が減るっていても、全体的にばらばらと人口がなくなるわけですから、私たちの議員活動の範囲が狭まるわけではありません。決してその、例えば中山間地域でも当然目を配らなければなりませんので、そういうことを考えると、やっぱり2も減らしてしまうとそういうところに目が届きにくくなる可能性があるかなと思いますので、そういう根拠で1ということで提案させていただきました。

以上です。

○**網谷委員長** ありがとうございます。

小中委員。

○**小中委員** 何人増やす、減らすのに感覚という御指摘がありましたが、感覚というよりも私は常識だと思うんですよ。何人減らすのはどういう根拠がっていうようなことを厳密に言われても答えられませんし、これ以上はもう限界だと、じゃあその限界の理由は何なのかっていうのは私は分かりませんけれども、何ぼ言っても私は水かけ論にしかならんと思います。

ある程度良識を考えて、今減らすと言うたって、大体その考えてっていうのが当然あるわけで、2減らすのはこういう絶対的な理由があるから2減らすんだって、そういう証明はできないと私は思います。

○**網谷委員長** ありがとうございます。

ほかに。

日域委員。

○**日域委員** 理論的に詰めていってもなかなか答えは出ないような気がしますけれども、それは定数を減らせばある種ハードルは上がるわけですから、出ようかと思ったけどやめようとか判断される方もあるでしょうし、いろいろありますよね。

結局無投票を避けたいということにおいては、皆さん本当は無投票が楽よねって本音は

あってもなかなかそれは表では言いませんから、この場で無投票がいいとは誰もおっしゃってはないですね。

一つには、昔に比べて新しい人が出てくるというか、そういう熱気が町になくなってんだらうという気がします。例えば、ちょっと前までは年金がありましたよね。3期になったら年金もらえて、4期になったからといって年金が大して増えないですね。4期も5期も6期もやっても、ちょっとしか増えないですね。だからちょうど辞め頃なんですよ。

それで辞めていく方がいたというのも、あったんかもしれませんが、いろんな意味があって、最近新しい候補の方が出にくくなってるので、定数を減らすっていうのはやっぱり一定の意味はあると思います。でもやっぱり自分たちのことですから、例えばお隣の人に、おまえ選挙出えやって言いますかって。自分の後援会の人に、わし仲間が欲しいけえ、あんたも出えや、一緒にやろうやって絶対に言いませんから。

だからそもそもここで話すること自体が、論理的に言えばナンセンスなんですけれども、だからやっぱりこういうことはこの自らじゃなくて、どこかに投げて、別の議員じゃない委員会か何かつくってそこで議論してほしいなと、本当は思いますけどね。

でも、それは今は無理なんでしょうけれども、減らしても私はいいと思いますし、同時に減らすばかりじゃなくて、もっと出やすいように環境を少し変えられるもんがあれば変えていったらいいなという気がしています。

議員定数だったらここで賛成ってやれば変わるんですけどね。出やすい環境をつくるっていうのは、実際はなかなか難しいですから、そっち側はだから放ってあるというか、それが現状なんだろうけどもね。関心を持っている人はいるとは思いますがね。以上です。

何かこのまま議論してても、どっち向いて言っているのかよく分からないところがあるんですが。

それと、このアンケートは随分前のアンケートでしょ。極端に言えば、毎回やったらいいと思うんです。このアンケートの時点と今は全然違いますからね。

あの後、出来事とすれば山本さんが亡くなられたわけですよ。そんなことは想定してなかったですから。この中にも山本さんの意見も入ってますよね。それで山本さんが亡くなられて補欠選挙っていうのが出てきて、昨日その説明会があって何人かは来られたわけですね。大事な要素じゃないですか。

そういうのを考えたら、またこの議論の内容が変わってもいいはずなんですけれども、これをベースに議論するっていうのはちょっと新鮮味がないですからね。だから何なら次までに、皆さんまた思いがあったら出してくださいっていうのもいいかもしれませんけどね。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

小中委員。

○小中委員 日域委員はおっしゃいますけど、まず補選と本選の関係がどのぐらいあるかっ

ていう。前回だって補選は3分の1になったわけでしょ。必ずしも補選にたくさん出たら、本選に実際その人らが全部出るかどうか分からない、それでもうあかんかったからちゅうのもあるかも分からんし、それは一概に、補選は補選、本選は本選で、補選に何人、まだ来ただけなんだけど、それが立候補しようが本選も投票が確定となるかどうか、そんなことは全く分からないということですよね。

引退が出たのに対して、結局新人がどのぐらい立候補するかちゅうことなんだろうし、補選と本選のはそんなに関係があるのかなという、私は個人的には疑問があります。

○網谷委員長 ありがとうございます。

原田委員。

○原田委員 先ほどのアンケートの提案の話ですけれども、鮮度の問題は確かにあると思います。すぐにやるかは別としても、この半年近くで皆さん意見も変わられて、何かしらその結論に近いものがまた出てる可能性もありますから、9月の結論を出すまでの間にどこかで、これはひとつやるべきなのではないかなと、私は思います。

以上です。

○網谷委員長 ぼちぼち空気浄化の時間ですので。

ちょっと最後に、副委員長、何かありますか。

○西村副委員長 休憩前にすみません。

皆さんの意見をそれぞれ聞かせていただきました。先般、議長を含め、我々正副委員長で協議をしました。それで確かに先ほどから聞いておれば、昨年の12月にアンケートを取った結果で今、皆さん話されていますが、それはそれで。

ただ一番大事なことは、議員定数は議会が決めるんですよ。責任取ってくださいよ、皆さん。だから簡単に減らせとか現状維持とか、いろいろあると思いますが、それは議員として自覚してください。それが議員の資質につながる。

もう一つは、結果だけを言いますと、昨年の12月の結果では、削減が3名、現状維持が7名、保留が6名。

それから、無投票回避の打開策。昨日、日域委員が言われたように、補欠選挙にも3名も4名も来られてました。それはいいことなんですよ。ただどこで考えられることは、一つは定数削減すると、さっき小中委員が言われたように、チャンスがありながら入り口が狭められると。議員が決めたということになれば、議員が自分らの保身のためにと捉えられても仕方がない。これが議会が決める定数なんですよ。もっと責任持ってやる。

結論じゃないんですが、議員定数の在り方、いろんな資料があります。先ほども言われましたが、総務省の状況を出された議員の方もいらっしゃいました。確かに参考になります。そういうことを併せて大竹市がどうあるべきかということは、もっともっと考えるべきだと思います。

最後にこれは私の持論ですが、2万6,000何がしの人口を16の定数で割ってみてください。1人の議員が1,648、それを現状、前回の投票率48%に掛けますと、791になるんですよ。皆さんの得票数を考えてみてください。現実、皆さんそれぐらい取られて議員にとるんですよ。そしたらこれを365で割りますと、1日2件、選挙運動を含めて議員活動

されてます。4年間で同じ家に8回行くんですよ。これが議員の何をしよるんかという結果だと、私は思います。だけど、あれは来ん、これは来ん、声も聴いてくれんという声が非常に多いんです。これは議員の1人として我々にも責任があるし、皆さんにもお願いしたい。

それで大竹市議会の定数云々でなしに、議会の質を現状の議長を筆頭に高めていくのが議会活動なんですよ。亡くなった人は気の毒なんですよ、夢半ばにしてですからね。だからそういう意味では、もっと議員がそういうことを検討してもらいたい。

今からちょっと休憩されるんで、その間よく考えて、年寄りの私のわがままですが、そういうことを、また皆さんの意見を伺いたいと思います。

以上であります。

○網谷委員長 ありがとうございます。

空気換気の前に、議長、一言何か。

○賀屋議長 お疲れでございます。皆さんのいろいろな意見を拝聴させていただきまして、全くだなという意見もありますし、ちょっと勘違いされているのもあるのかなというところもありました。

特に無投票と議員定数の関係については、私個人的には、立候補者が同数だったために無投票だったという、それは結果論であって、先ほどありましたように相関関係は確かにあるかも分かりませんけれども、増やしたから、減らしたから絶対無投票にならないという、その担保はありませんので、そこについては因果関係はないんじゃないかというふうに考えております。

それともう一点、16番目の、人口規模が少ないほど無投票の率が多いというこの総務省の見解でございますけれども、これは町村議会であって、それでこの表にもありますように、1,000人未満の町か村か分かりませんけれども、そこで17団体の定員、議員定数が7人、平均ですね、ぐらゐの小さな町か村か、そこでは無投票になることが多い。それは1,000人未満ですから、もうどなたが投票に行くか、どういう欠員があるかというのは全て分かるわけですよ。そういう分かっただけで選挙をするということ自体も、これはなかなか厳しいものがあるんじゃないかということで、改めて選挙までせんでも、村や町を二分するような話をせんでもいいんじゃないかという、やはり特有の、都市と違う規模の話がここに上がっているんじゃないかなと思います。ということで、これは直接、1,000人未満の議員定数が7人のところと大竹市とを比較して考える必要もないのではないかと思います。

休憩後も活発な意見交換を期待をして、お願いします。終わります。

○網谷委員長 ありがとうございます。

それでは空気換気を含めて、20分から再開いたします。

11時09分 休憩

11時20分 再開

○網谷委員長 それでは、休憩前に引き続き会議を開会いたします。

今までいろんな意見が出ておりますが、定数にしろ議員のなり手不足にしろ、議員の、

いろんな問題に対しまして、その根拠ということを知りたいというテーマにもなっとるんですが、大体という言葉は悪いですが、雰囲気的にこういう感じだからというふうに、こういう感じだからというのが世間一般論ではあろうかと思います。

そういう意味で、平成23年、総務省のほうが議員定数は各自治体で決めなさいという、一応定義というものは示されておりますので、総務省も、何人が適当だからということも言えないという結論になっとるのではないかと私自身は考えとるんです。

私、前にも申しましたとおり、広島市議会では二十何万人に1人ですよ。それに隣の和木町が6,000人に10人、600人に1人ということなんです。もうその定義をどこで決めるかということ根拠を示せと言われても、なかなか難しい問題ではないかと思っています。

確実に証明をできるって言われるほどの、答弁があれば教えてほしいんですが、なければ難しいですねというぐらいしか、答弁がないんですよ。

小田上委員。

○小田上委員 根拠を誰かが示すとかっていう作業も、後々深くなっていけばというか、本当に特定の、テーマになったときであれば持ってこられると思います。ただ、序盤に言ったように、各委員が持っている感覚っていうものがどの程度のものなんだというものが共有されて、この改革の委員会の中である決定をしないといけないというところはあるかと思っています。そういうところのお互いにその感覚、先ほど常識だと思うって言われましたけど、ちょっとそれが常識たるほど常識ではないんじゃないかなと思ったりとか、ただ批判するとか批判し合うとかじゃなくて、自分の中ではこうなんだけどどうだろうかっていう話をもっとできていけばいいのかなと思うのと、根拠を示そうとしたときに必要なのは、以前から少し出てますけど、仕事の棚卸しというもので、議員って、委員会って何人が必要だよんとかっていう議論、以前の定数の話とかでもされてきてます。それもいま一度見直すっていう作業も、理由づけの一つになろうかなとは思っています。

ただ、今回話している、今の定数16に対して無投票の因果関係っていうところは、委員さんの話を聞いたり自分が発言していく中で、どうやら因果関係はなさそうであるという方向は、何となく見えている気はするんですね。であれば、因果関係はないがこういう点に気をつけていきたいっていうところをもっと明確にしないといけないよねっていうこのアンケートを受けた問題点というか、この中で話したからこそ出てきたテーマっていうものを出せていけたら、今後につながるのかなと思います。

このアンケートをしっかりと使って、半年近くたっているということではあるんですけど、今日みたいに話をしたのは久しぶりですね、議会報告会の準備があったので。であれば、正直そこまで変わっているように思えないです。大本の、根本のところは変わるようなアンケートでもないのかなと。変わるとしたら、今後どうしたらいいのかなっていうところは変わってくるのかもしれないですけど、それ以前の部分ですね。具体的な数がどうこうじゃない部分に関しては、そうそう変わるものじゃないと思ったりもします。

なので、これを基にもっと話ができればいいなと思いますし、委員長もいっぱい出るので大変だと思いますけど、僕はここをしっかりと話したほうがいいと思います、みたいなテーマ、僕は言わせてもらって、ほかの委員さんと言われてるので、じゃあそのテーマにつ

いては話していきましようかっていうのがどんどんできるようになれば、このアンケート発の議論ということで、すごく議論にはなるんじゃないかなと思います。

○網谷委員長 ありがとうございます。

原田委員。

○原田委員 私はそこまではどうなのかなという疑問です。棚卸しですね。するところろは、若干疑問なんですけど、小田上委員の言われたように、根拠というものは今後、1名減の15と言ったんですけど、そのピンポイントの話になれば、十分に根拠は示すことができます。

先ほど大ざっぱに人口の問題と議員の活動範囲のことでしか言ってませんけれども、それ以外の根拠も示せますので、そういう話になればできるかと思います。

○網谷委員長 ありがとうございます。

ほかに。

小中委員。

○小中委員 ちょっと戻りますけれども、その因果関係っていうのは前回はなかったでいいんですけど、次回に大体何人ぐらいが引退するっていうのが分かかって、何もしなかったと。それで無投票になったら、これはもう完全に因果関係ありますから。前回はもうしょうがないですよ。だからそういう意味で、私は不可抗力と言いました。人口云々もありますけれども、大竹市の面積っていうのもあるわけですよ、人口とか面積。大竹は100平方キロ未満ですからね、島嶼部と山間地はあるけれども。だからそういうのも人口だけではないという。

厳密に根拠を説明する、要するに数学とかそういう説明はできない。感覚がどうのこうの言うて、私は常識っていうより良識だと思いますね。だから減らすか減らさないかっていうのがまずあって、じゃあ何ぼ減らすんやと、1か2かと。例えば2だと、2つの委員会1人ずつで合わせられる、そのくらいの根拠は示せるけれども、数学なんかの証明みたいな、そんな根拠示せるわけないと。だからそこら辺は良識の範囲内で。

○網谷委員長 ほかにございますかね。

北地委員。

○北地委員 小中委員の言われるように、前回無投票だったから今回減らすんですよという理由づけでは、やっぱり市民に説明ができないんじゃないかと思います。だからそういう中で、やっぱり何かの理由、動かすなら動かす理由、現状維持なら現状維持の理由も要るけど、減らすなら減らす理由も、それぞれやっぱり市民に説明する理由は要るんだろうと思います。

それと併せて、一つずつまとめて、今因果関係がどうなんだっていうのを一つにまとめるとか、そういった方向で積み上げていかないと、何かちょっと頭の中の整理があっち行ったりこっち行ったりしてまとまりがつかんのですけども、その辺委員長のほうでよろしくお願ひしたいと思います。

○網谷委員長 まとまりを委員長に振られても困るんですけどね。アンケートを、今のところテーマにしとるんですからね。それで因果関係がありが3名と、なしが9名と、そのほか

が4名ということで、これがこのアンケートの中での、まとめになっとなるんですがね。それを委員長の名の下にこれをもう一回整理せえと言われてもなかなか難しいんじゃないかなと私は感じとるんですが、どうですかね、何か意見がございますかね。

日域委員。

○日域委員 因果関係という言葉がさっきからあるんですけども、因果関係というのは私、ない気がしますけど、限界何とかって言い方がありますよね。要するに選挙に出てみたいと思っている方が一定数いるという前提に立てば、それは定数を減らしてやれば、当然選挙になる可能性は高くなりますね。定数を増やせば無投票になる可能性は高くなりますよね。それが数式的にぼんちゅと出るんじゃなくて、やっぱり社会の状況が一定であれば、当然定数を下げれば、それだけ競争率は上がります。

ただ、無投票だったことをどこまで気にするかっていうのがあって、最初にちょっと言いましたけど、この前の選挙のときに、それは初日の5時過ぎに、同数だったと、要するに選挙が終わったと。やっぱり正直うれしかったですよね。

ある意味後ろめたさも含めてですけど、そういう自らが自らの身分というか、決めるようなことをやっているわけですよ、今。だからそこにある種矛盾があるんですけども、さっき副委員長は議会が決めるんだって言われましたけど、全くそのとおりですよ、その決める材料として、やっぱり自分に不利になることは決めたくないというのもあるし、本当に難しいです。

ただ、無投票になった町が、いろんな統計がありましたけど、ここのところ一定の範囲か全国か知りませんが、市町村があって、無投票だったっていう事例はそれなりにあると思いますけれども、そのときにそれぞれの議会が定数をどうしたかっていうのは若干気になるんですけども、いや、よそを気にすることはないですよ、自ら決めるんですけども、でも参考例として、よそがどうしたのかなど。無投票になって定数を増やしたっていう町はないと思いますけれども、無投票になって次に減らしたか、減らさないかの2つですよ。幾つ減らしたかちゅうのものもあるかもしれませんがね。そのデータってどこかにないですかね。若干見てみたいなという気はしてますけれども。調べたら分かりますよね。

○網谷委員長 データはありますよ。全国のね。

○日域委員 委員長、ではよろしくお願いします。

○網谷委員長 今データと言われたのは、小中委員が最初に、9月に出されましたよね。一応2万から5万ですかね。それが全国的によく調べていただいとるんでね。その中に無投票のところがかなりありましたよね。

小中委員。

○小中委員 減らしたところっていうのは、前回無投票になったら、少なくとも議員定数をどうすればええかという議論はするわけですよ、大体ね。やっぱり無投票になったらあれなんで、そういうのを受けて、大体何かするわけですよ。それで無投票だから減らすのはおかしいなんていうような考え方は基本的にナンセンスというか、ほとんどそれが原因なわけですよ。

やっぱり選挙をしなきゃいけないっちゃうのがまず大前提にあって、無投票はよくないと思う人が多いから、例えば柳井は無投票になったらすぐに、ある程度、いわゆる保守系で、無投票になったら減らさなあかんやろなっていうので、そのコンセンサスができてたから、1年間ですぐ定数削減が決まったと。

無投票回避のために定数削減をするのはおかしいっていう、そんなことを考えることが、私はおかしいと思います。

○網谷委員長 ほかに御意見ございますかね。

北地委員。

○北地委員 だから、無投票になりましたよ、大竹市でもこうやって検討してますよと。だから日域さんが言われるように、全国の市町で結果無投票になって、議論はしました。結果、減にしましたというのがどれぐらいあるのかなっていうのはちょっと興味があるところですが、そういった資料というのをちょっと調べてみたらどうかなとは思いますが。

その理由づけも、多分あるところに合併して、あまりにも多いからもう減らす段階のところもあるし、いろんな理由もあると思うんですけども、そういった数字っちゃうのもちょっと見てみたいとは思いますが、何か資料を探したらどうかなと思いますけど、いかがでしょうか。

○網谷委員長 大体分かりましたが、そのデータ、小中委員の資料の中から引っ張り出してから、できますかね、できませんかね。どうですか。

○小中委員 2万から5万の中だったら、もう一回調べりゃ、それは可能だと思います。前回無投票で、その次の選挙で、定数削減したかどうかっていうのを調べるのはあれやけど、私が個人的にやって、また根拠は何やとかそんなことを言われたら、もうやっとならへんのでね。

○網谷委員長 事務局、今、北地委員が言われたようなまとめはできますかね。

局長。

○三上議会事務局長 そういったデータはありませんので、調べようがありません。

○網谷委員長 小中委員。

○小中委員 私は別にやることは全然やぶさかでないけど、前回何かこれ、正しいのかどうか分からんとか言われて、何を言うてるんやと私は思いましたし、そんなことを言い出したらあれなんでね。私は別にやること、無投票で次どういうふうな行動を取ったかっちゃうのがどのぐらいあるかを調べようと思えば調べられる、2万から4万程度ぐらいやったら数は知れてるので、実際私、ホームページで調べて電話して聞いたりしますから、ただそれはどこが根拠とか言われたら困るので、やることに対しては、そんなに難しい話やないからね。やれと言われればやりますけど。

○網谷委員長 ありがとうございます。

原田委員。

○原田委員 大竹は大竹の事情があると思いますし、人口も面積も分かってますし、参考としては、ないよりあったほうがいいのかも分からないですけど、それよりは議員個々が議

員定数について、1なのか2なのか減なのか、自分なりの根拠を示せばよいのではないかなと思ってですね。他市のデータが必要なのかと。もっと早い段階だったら別だったかも分かりませんが、この段階で要るのかと問われると、私は要らないのではないかなというの意見です。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

今3者の意見が出たんですが、ほかの委員の方、どう思われますか。

小田上委員。

○小田上委員 すみません、相当前に戻るんですけど、因果関係と無投票のところに正直戻りたい。

委員長に失礼ながらお願いしたいのは、委員で、因果関係ないんじゃないかというような意見が出てるように、僕は思えます。なので委員会の方向として、無投票とこの定数16、前回の選挙に関して因果関係はなかったという前提で今後進めていくっていうことでいいかっていうのは、諮っていただくなり、方向を決めていただかないと、この流れのまま、皆さん因果関係はないんだろうなって進んでいけばいいんですけど、実はそうじゃなかったという方がおられて、またそっちの方向になってくると、今みたいに話が अच्छ 行きこっち行きしたりもするのと一緒に、足踏みが続きかねないので、どの方向に、向くかっていうところをまず固めておいていただいたら、じゃあ因果関係はなかったんだから、まずここは切り離して考えていこうという一歩が踏み出せるというところで、やったほうがいいのかなと思います。

データ云々も前提として因果関係ないよねというところから始まって、じゃあないんだったらどうしてだろうっていう、次に進めるのかなと思うので、そこは委員会として方向を決めていただくのは、やっぱり委員長がよろしいですかと諮っていただいて、進んでいくべきなんだろうと思います。

ここで一旦終わって、資料の話、一点だけ訂正をお願いしたいんですけど、委員会に出てきたときに、根拠がどうこうって言った覚えはありません。市民の方に提示するっていうときに、ここが根拠ですよってあったほうが、間違えていたときに、委員会の中で審議しているときに細かい数字に間違いがあったねとかいうことがもしあっても、まあまあ訂正してもらえればそれでいいし、分かったんだったらそれでいい。だけど市民の方に出すんだったらちゃんとやっというほうがよくないですかっていう話をしたので、その誤解があるのが、個人的には寂しいなと思いました。

以上です。

○網谷委員長 原田委員。

○原田委員 小田上委員と同意見です。やっぱりここでもう、因果関係についてははっきりと諮っていただいて、次の議論がありますので、次回どういう議論をするかっていうことになると思います。その辺りを決めていくっていうことにおいても、まずその因果関係についてははっきり諮って、この委員会の中で、委員長のほうでそのようにしていただければなというふうに思います。お願いいたします。

○網谷委員長 その前に、先ほど北地委員が言われたデータ作成の云々ですがね。こちらのほう、どうでしょうか。

小田上委員。

○小田上委員 事務局のほうが、できないと言っているものが、誰かがやったらできるって言うのも、正直よく分からない話なんで、そこは一旦整理を別の場所ですていただくなりなんなりしていただいたほうがいいのかと思いますし、その情報が要るんだったら要るで、どの前提で、僕らは因果関係ないって考えてるから、じゃあ因果関係ないなりにどういう資料が要るねっていうところの俎上に上げていけばいいんじゃないんですかね。先に方向を決めていただいたほうが、その次に話をするときに、どんな資料が要るんだろうとかっていうことになりやすいのかなと思ったりします。

○網谷委員長 ありがとうございます。

だから、先ほどの北地委員に問いかけとるんですから。そのまず一個の、するならする、しないならしないというふうに、私は決めたかったということでございます。それはもう。

(発言する者あり)

○網谷委員長 ということは、もうデータの分はしないということによろしいですかね。

それから今、議員定数と無投票の因果関係ということ、これはなしにするのか。ちょっと因果関係があるという方が少ないという意味で、これはもう取り合わないということにするのかという、今、質問事項みたいなのがあったんですが、私はこの今、議員定数と無投票の因果関係、それから無投票回避、議員定数の在り方というこの3項目についてはあくまでもアンケートでございますから、アンケートというのは、最終的には議員定数の在り方と皆さんと決めましたんで、この一つ一つの参考にする項目を、これをなしにするとかありにする判断が要るのかなと、要るなら要るように、もう私も決めさせていただきたいんですが。はっきり言えば、この今の因果関係の問題は、もうこれからは議論しないという意味でよろしいんですかね。

小田上委員。

○小田上委員 このアンケートを無視するっていうことじゃなくて、この因果関係っていうところで、今日議論というか意見を出し合って、因果関係はなさそうだねという議論が多いですね。じゃあ因果関係がないとしたらなぜ無投票だったんだろうとか、因果関係がないんだから無投票の回避はどうやったらいいんだろうっていう話ができると思うんですよ。

これが、因果関係あるかどうか分からないね、アンケートではこうだよっていうところで、前提条件がばらばらになっちゃうと、話がまたあっち行き、こっち行きするかなと。アンケートはあくまでもアンケートなので、でもこの中で話してて、因果関係ないよねっていう会で方向性を決めてあげるのは何の問題もないように思うんですけど、なので、これを取り扱わない、取り合わないんじゃないかって、因果関係はこの改革ではあるのかないのかを方向性の一つとして決めてあげないと、今後の話ができないんじゃないかなと思うんです。そう思われるんだったらほかの委員さん、そう言っていただきたいし、そんなものは要らないと思うんだったら要らないと言っていたいただきたいので、すみません、ほかの委

員さん、お願いします。

○網谷委員長 小中委員。

○小中委員 アンケートでは因果関係がないのが多いということだと言えるかもしれないけど、ここの委員会で因果関係がないって断定する必要がどこにあるのかと、私は思います。

別に因果関係はそうだったと、アンケートとかその意見でもそうだったと。だからといって、ここで因果関係は全くないって断定する必要がどこにあるのかと、議論を進めるに当たってですね。もう因果関係に関する議論はこの程度にして、次の打開策に行きましょうっていうんだったらそれはそれで理解できますけれども、因果関係はないっていう断定する必要は全くないし、それやったら私は、因果関係は結果としてあるとしとるんで、別にほかの人が全部で、それで因果関係がないって断定するのがええって言うんやったら、それはそれで私は結構ですけどね。

○網谷委員長 それでは副委員長の意見としまして、アンケートの結果は、無投票との因果関係は、因果関係ありが3名、それからなしが9名、そのほか4名、16人中13名が関係ないと出ております。議会としては、因果関係については説明する必要はないと考えています。

また、因果関係についてはほかにあるかと思いますが、現状はないとの回答が多くありました。議会としましては因果関係についてはないとの意見が多くありましたので、今日のこの項目、議員定数と無投票の因果関係については、今のような方向で一応議論はこの辺にしておきたいということで、次は因果関係、無投票回避の打開策に移りたいと思いますが、いかがでしょうか。

小田上委員。

○小田上委員 これから話していく上で、僕はなかったということでどうしていく、あるということでどうしていくってほうが進めやすいかなと思ったんで、それがほかの方は必要ないと思われるんだったらいいですけど、私は必要だと思いますんで、それは賛成はできないですね。このままよく分からない感じで行くってということであれば、賛成はできません。

○網谷委員長 ありがとうございます。

よく分からないで行くんじゃないんですよ。一応この結果報告を私は示したんですよ。その理由づけを示してくださいという意味のことですか。

原田委員。

○原田委員 委員長が言われたのは、一旦この無投票との因果関係についての議論は終わりにして、次回からはまた違う議論に入りますよということですよ。持ち出してはいけないということではなくて、一応今日議論はしたので、これで一つ区切りをつけましょうという認識でいいんでしょうか。

○網谷委員長 そうですよ。

○原田委員 それでしたら私は別にそれでよいと思います。はっきりと、もうこれはなかったと決めるという方法も、多分今小田上委員が言われたのはそういうことじゃないかなと思うんですが、どこかでまたそういう話も議論の中で出てくるかも分かりませんし、は

つきり委員会として結論づけるというところまではしなくてもよいのかなというのは、私の意見です。だから委員長の言われるような、もし思いが一緒でしたらそれでよいと思います。

○網谷委員長 今、原田委員がうまいこと説明してくれましたので、そのとおりでございます。これは、もし方向性を決めたからといって因果関係を一切議論しないということではありませんので、これはこれとしてこういう位置づけでございますということを踏まえて、次の段階に行きたいということを私は伝えたかったのですね。

何かありますか、小田上委員。

○小田上委員 皆さんがそうなら1人の意見なので、ですけど、議論がしやすいなと思ってるのがそこなので、ほかの方がそれで構わないということであれば、それは仕方ないです。

○網谷委員長 藤川委員。

○藤川委員 すみません、その方向性で行くなら私も問題ないとは思いますが、これはこのままするっと思っていてもいいテーマだと思うんですが、次の無投票回避の打開策、これはするっと思うわけにはいかないと思うんですよ。ここをするっと思うと、次もするっと思うって、その次もするっと思うって、何も決まってないのは、今日何話したんだっけっていう感覚になってしまうんじゃないかなと。

だから一つずつ結果を全て出すっていうよりも、何か方向性の一つずつやっていったほうがいいのかなと。このテーマに限ればこれでもいいのかなと思いますけど、その打開策っていうのはすごく大切なテーマだと思いますので、そこはしっかりとやっていただけたらと思います。

○網谷委員長 それは一応要望として聞いておきます。

今の藤川委員は、次のテーマをさっと決めてくださいという意味でございます。

ということで、今回無投票との因果関係はこの辺にしてよろしいでしょうか、皆さん。

〔「いいです」と呼ぶ者あり〕

○網谷委員長 いいですという意見が出ましたので。

(発言する者あり)

○網谷委員長 もう一回同じことを言いますよ。アンケートの結果は、因果関係ありが3名です。なしが9名、それからそのほかが4名、16名中13名が関係ないと出ております。議会としては、因果関係については説明する理由もないと考えております。というのも、あまりにも因果関係ありが少ないということでございますので、そういう意味でございます。ほかに3名という方が因果関係ありと一応出ておりますが、3名の方はちょっと不服かも分かりませんが、一応そういう方向性で今回の因果関係は一まとめしたいということで、結局はアンケートの結果になるかと思いますが、そういう流れで、次のステップでございます無投票回避の打開策を、次の会議で行いたいと思います。

原田委員。

○原田委員 今の委員長の話だと、おおむねその委員会としては、因果関係はなかったということで、それを踏まえて今後議論していただくという意味に聞こえるんですが、それでよろしいですか、そういう解釈で。

○網谷委員長 全くそのとおりです。

○原田委員 分かりました。

○網谷委員長 小田上委員。

○小田上委員 先ほど、今の原田委員の発言が全くそのとおりですっていうことであれば、今まで僕は何の反対をしてきたんだろうと、ちょっと思うんですね。いや、もう、それならいいです、それなら。

○網谷委員長 よく、小田上委員、今まで何をしてきたんとか、何をみんなに伝えるんとか、そういう言葉が端々によく出るのを承知しております。というのも、何といいましてこの特別委員会、一点に絞りましたからね。結果は一つも進んでないと思いますよ。この結果が出るときは、あくまでも9月、結果が最終日でございます。ということは、それまでにいろんな皆さんの意見を聴きながら、またアンケートもしながらこうして会議を重ねてきたわけでございます。それを参考にしまして、また踏まえまして、最終的な判断を7月、8月にやっていきたいということで、こないだも若干説明したと思いますが、5月、6月は若干の余裕のある月でございますので、こうしていろいろ皆さんと協議しながら、7月、8月の最終段階、具体的な対策に向けて議論してまいりたいと思います。今回アンケート3項目について、1項目ずつ議論していきたいという意見を聞きまして、今こうして実行しとるわけでございます。

私自身、感想としましては皆さんの意見が9月から今まで、同じようなことを行ったり来たりしておりますというのは、確かにございます。これはひとえに9月の結果に備えての皆さんの意見を、我々といいますか、正副委員長は特に意見を反映するためにこうして会議を開いておるわけでございますので、今までにどこまでの結果が出たとか、どこまで進んだとかいう問題では、私はできないのではないかと。また、難しいのではないかとこのように考えております。

以上です。

小田上委員。

○小田上委員 委員長、一つ思い返していただきたいのが、今日、僕一回も、何も決まっていないじゃないのって言ってないと思うんですね。先ほど申し上げたのは、僕の認識が違ってて、原田委員が言われたことがそのとおりだと言われたので、今まで僕は何を反対したんだろうな、分かりました、それなら大丈夫ですっていうふうに申し上げただけなので、そこが今日、何も進んでないみたいなことは言うつもりはないので、もし誤解されているようでしたら、そこだけお願いします。

ただ、今まで進んできてないのも事実なので、そこも一言言っておきますけれども、特に今日は何も進んでないとは思いません。

○網谷委員長 ありがとうございます。確かに今時点でも進んではおりませんよ、確かに。それは認めてます。

ということで、今日の議論の仕方でもかなり堂々巡りといいますか、同じような意見がずっと出ております。そういう意味では進んでないかも分かりませんが、それを踏まえて、9月までには私は結論を出そうという心構えでおりますので、その辺のところは御理解い

ただいたらと思います。

原田委員。

○**原田委員** 十分に進んだと私は思ってます。少なくともその無投票の因果関係についてはこれで一つ区切りがついたのかなと思います。委員長のほうでこれから、これが再燃して、また再噴出して、そこで議論にならないように、そういうときにはきちっと制止していただくようにしていただければ、多少それは話の中で出てくるのは構わないと思うんですけども、そこにまた戻るっていうことだけはないようにしていただければ、私はそれで十分に前に進んだと思います。

以上です。

○**網谷委員長** その言葉は、委員の皆さん、よくお聞きください。前に議論が戻ったとしても、議論を闘わせていただければと思います。

以上で終わってもよろしいでしょうか。

ということで、その他の項目に移りますが、何かありましたら。ないようでしたら、なしと認めてよろしいですね。

次回開催日程は令和4年6月1日の定例会の特別委員会になろうかと思います。基地周辺対策委員会の終了後ということで、よろしいですね。

それではよろしくお願いいたします。

以上で議会改革特別委員会を終了いたします。お疲れさまでした。

12時09分 閉会